

調査意見書

受理番号 107-42		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	6	9 - 10	単位円上で、x座標が $-\sqrt{3}/2$ となる点は、右の図の点Pである。	不正確である。 (単位円上で条件を満たす点は第3象限にもある。)	3-(1)		
2	65	下段	■4 直線の媒介変数表示 (全体)	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (ベクトルや媒介変数表示についての説明が不十分であるため、内容を理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
3	71	脚注	*a=bのとき、②は①の円と一致するから	生徒にとって理解し難い式番号である。 (同ページ内に①、②の式が2つずつある。)	3-(3)		
4	124	9	②を①に代入すると	生徒にとって理解し難い表現である。 (②のどの部分を代入するのか分からない。)	3-(3)		
5	157	25 - 27 右	「1章ベクトル 3節Training…p. 59」の24の解答	生徒にとって理解し難い解答である。 (何に対する解答なのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 107-44		学校 高等学校	教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検定基準	判定
	ページ	行				
1	170	4 右	「P.68 節末問題」の2の解答	誤りである。	3-(1)	
2	174	4 右	「P.169 Further Progress」の1.(2)の解答	誤りである。 (Qの座標)	3-(1)	
3	174	9 右	「P.169 Further Progress」の2.(3)の解答	不正確である。 (右段8行(2)の解答に照らして)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-45		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	101	6	懸垂曲線	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がなく分からない。)	3-(3)		
2	114	2	曲線がある直線に限りなく近づくとき、その直線を漸近線という。	不正確である。 (状況の設定)	3-(1)		
3	175	19 - 25	課題2および課題3	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (上の方法では必ずしも最小となる経路を求めることができるとは限らないため、解答できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
4	180	図	「3章平面上の曲線 1節CHECK…p. 125」の□4(1)の図	誤りである。 (図の右上にある「 $(y-2)^2=8(x+1)^2$ 」)	3-(1)		
5	後見返し①		円錐曲線 (全体)	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-47		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	41	側注	22-25行右の側注における「→深化問題 p. 169」	組織が適切でない。 (41ページの学習後に確認できるように示されているが、169ページの記述内容は42ページまでの学習を前提としている。)	2-(12)		
2	76	側注	4-9行右の側注 複素数平面はベクトルと対応させて考えるとよい。例えば、…に対応している。	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(1)の「この科目は、内容の(1)から(3)までの中から適宜選択させるものとする。」に照らして扱いが不適切である。)	2-(1)		
3	112	20	直線と曲線の差は限りなく0に近づく。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「直線と曲線の差」が何を表しているのか分からない。)	3-(3)		
4	144	19 - 20	グラフBの円グラフは、種目別で「好き」と答えた人数の割合を表している	生徒にとって理解し難い表現である。 (何に対する割合か分からない。)	3-(3)		
5	146	20	それらの図	生徒にとって理解し難い表現である。 (「それら」が何を指すのか分からない。)	3-(3)		
6	173	20	Bさんの発言(ウ)	誤りである。	3-(1)		
7	185	9 - 10 左	「第2節 平面図形と複素数」の間1(イ)、(ウ)の解答	誤りである。	3-(1)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-48		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	110	20	直線と曲線の差は限りなく0に近づく。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「直線と曲線の差」が何を表しているのか分からない。)	3-(3)		
2	134	19	右のQRコードを読み取って確認しよう。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (2次元コード先の内容を確認しなければ学習できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
3	142	19 - 20	グラフBの円グラフは、種目別で「好き」と答えた人数の割合を表している	生徒にとって理解し難い表現である。 (何に対する割合か分からない。)	3-(3)		
4	145	2	それらの図	生徒にとって理解し難い表現である。 (「それら」が何を指すのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-49		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	41	24	例22の図	誤りである。 (例22に図はない。)	3-(1)		
2	112	20	図1の点F	誤りである。 (図1に点Fはない。)	3-(1)		
3	129	18	最短の長さ	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)		
4	135	7 左	「math探 (26ページ)」の演習1エ, オの解答	誤りである。	3-(1)		
5	137	5 左	「math探 (73ページ)」の演習1 (1) の解答	誤りである。 (「-i」)	3-(1)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-50		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	171	図	練習2のバブルチャート	不正確である。 (2023年におけるデータに照らして)	3-(1)		
2	197	23 - 24	なお、70ページの「発展」の内容を利用すれば、～求めることができる。	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (70ページの内容は、一律には学習しない他の「発展」にあり、どのようにして求めることができるのか理解できないという支障を生ずるおそれがある。)	2-(1)		
3	199	15	145ページの18行目以降で述べたように	生徒にとって理解し難い表現である。 (なぜ、145ページの17行をのぞいているのか分からない。)	3-(3)		
4	199	22 - 23	発展 数学Ⅲで、～加速度について学習するが、上記の媒介変数表示を利用する。	発展的な学習内容には該当しない。	2-(15)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 107-52		学校 高等学校		教科 数学	種目 数学C	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	180	8 - 9	平面幾何	生徒にとって理解し難い用語である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)		
2	181	22	種類の異なる文字	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような意味で記述しているのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

